学年通信9月 競再逞真（せっさたくま）

豊橋市立羽田中学校２年生
令和２年　９月１１日

「チョコレートを知らない子どもたち」

今日の総合的な学習の時間は，「チョコレートって，どうやってできるの？」というテーマで授業を行いました。授業はチョコレートの生産国と消費国について考える時間でしたが，「児童労働」という言葉を知っていますか？

ガーナ産カカオを使ったチョコと「児童労働」

日本でも「フェアトレード」という言葉を聞くようになりましたが，この言葉がなくならないかぎり「アンフェア」なトレードが世界のどこかに存在することを意味しています。

〔※フェアトレード（Fair Trade ： 公平貿易）とは，途上国で作られた作物や製品を適正な価格で継続的に取引することによって，生産者の持続的な生活向上を支える仕組みです。〕

そのアンフェアなトレードの代表例が，児童労働によって収穫されたカカオを使ったチョコレートです。

日本では，「ガーナ」といえば「チョコレート」を連想する人が多いかもしれません。しかし，チョコレートの原料であるカカオの収穫を貧しい家族を支えるために，就学年齢の子どもたちが収穫していると知ったら複雑な気分になるはずです。その子どもたちは毎日チョコレートの原料となるカカオ豆を収穫しているにもかかわらず，チョコレートの味を知らないことがほとんどです。

国際労働機関（ＩＬＯ）によると，２０１７年の児童労働者数（５歳～１７歳）は，約１億５，２００万人（世界の子どもの１０人に１人）と推計しています。そのうちの約半数はアフリカ地域で，ガーナのカカオ豆の農園は代表的な児童労働の現場です。

「子どもが働くこと」＝「児童労働」ではありません。幼い子どもが労働を強制されていたり，心身の発達や社会性・教育面での発達を阻害する危険な労働を強いられたりするのが「児童労働」です。

依然，日本の人口を上回る子どもが児童労働に従事している現実を，私たち日本人が変えることはできません。しかし，日本で食べられているチョコレートの原料が子どもたちによって収穫されているかもしれないと想像をめぐらし，たとえば，フェアトレード認証がついた商品を買うなど自分の行動に反映させていくことが大切ではないでしょうか。

【６０分でわかる！ ＳＤＧｓ超入門（功能聡子，佐藤寛 監修）より】

裏面には，２００８年（平成２０年）に先生が総合的な学習の時間の授業で配付した「チョコレートを知らない子どもたち」という資料を紹介します。みなさんは，この資料を読んでどんなことを思ったり，感じたりするでしょう？ふだんの生活にもいかせることを考えていきましょう。

「チョコレートを知らない子どもたち」

「殴られるのは生活の一部。カカオの袋を担がされて落としてしまっても，誰も助けてくれない。もう一度担ぎ直すまで殴られ続ける。」

以前，カカオのプランテーションで，奴隷として働かされていた少年の言葉です。

彼は幸運にも，奴隷から開放されました。「奴隷」と聞くと 19 世紀の遺物のように思えますが，実は 21 世紀の今日でも奴隷は存在します。インド，パキスタン，ネパール，中国，バングラデシュのようなアジアの国々，そして，コートジボアールなどの西アフリカのカカオプランテーションで奴隷が存在します。「Free the Slaves」という NGO によると，その数は 2,700 万人に上るということです。

コートジボアールは世界最大のカカオ産地で，世界全体の 43%のカカオを作っています。2000 年のアメリカ国務省の報告によると，9 歳から 12 歳の少年がコートジボアール北部のコーヒーやカカオのプランテーションで奴隷として働かされているということです。法律的には違法なことなのですが，半ば公然と行われているようです。

子どもたちは，さらわれたり，だまされたりして連れて来られます。子どもたちの仕事は，カカオを収穫し，実を切り開いて中身を取り出すといった作業です。危険な農薬を撒かれることもあります。農薬を防ぐ防具などは，まったく与えられません。

仕事は長時間できつい作業です。朝６時くらいから畑に出て，夕方暗くなる６時半ころまで働きます。この国だけで，12,500 人の子どもたちが奴隷として隣国などから連れて来られたと思われます。（世界熱帯農業研究所調べ　2002 年８月）

子どもたちは隣国のマリ，ブルキナファソ，トーゴなどからやって来ます。親に売られて来る子もいます。「売られて」というより「だまされて」です。親たちはコートジボアールで，子どもたちがまともな仕事に就いて，そのうち稼いだお金を送ってくれると信じて子どもたちを送り出します。（売り渡します）

でも，コートジボアールに着くと，そんなことはウソだということがわかります。子どもたちに給料が支払われることはありません。

奴隷だから。

学校にも行かせてもらえません。

奴隷だから。

子どもたちすべてが奴隷ではなく，給料をもらう子もいます。しかし，その子たちもなかなか学校には行かせてもらえません。だから，コートジボアール全体では就学率は 64%なのですが，カカオ農園で働いている子どもたちの就学率は，わずか 34%でしかありません。

日本では，子どもたちが大好物のチョコレート。でも，原料のカカオを作っているのは，奴隷として連れて来られた同年代の子どもたちだという現実が世界にはあります。

「ぼくは，チョコレートが何か知らないんだ。」

カカオ農場の奴隷から開放された，先ほどの幸運な少年は言います。